

(2)米國は太平洋上に大艦隊を擁し秘密裡に日本の行動を監視し米國陸軍部長は「日本の佛印侵略はヒ島、香港を脅威するものなれば坐視する能はず」と言明せり。

外國宣傳情報第四號

内閣情報部七・三（延着）

湖南・貴州兩電臺北京語時事解説（六月二十七日）（支那派遣軍報道部報告）

◎日本は如何にして南進するや？

聽衆諸君！吾人は敵が南進と北進を以て敵國の二大政策となせるを知るなり。其の北進政策は又大陸政策と謂ひ其の目的の最も重要なるは亞細亞全洲制覇に在り次で南進政策は又大洋政策とも稱し南太平洋各地進攻を目的とせり。

一八七八年明治時代の初期敵の大陸政策遂行は比較的積極性を有せり。明治六年敵國は政府官吏を南洋に留學せしめ二年後に敵は中國の屬地臺灣の侵略を企圖し明治十三年に至り遂に琉球侵略を實行し憲法を實施せり。之れ即ち敵國南進第一歩の成功なり。一八九〇年中日戦争停止に際し敵は戦勝の餘威を馳つて臺灣割讓を要求し敵の南進政策の第二歩は又も成功せり。

大正三年即ち一九一四年歐洲大戰勃發に際し敵は好機逸す可からずと對獨宣戰布告を行ふと共に南洋を占領し赤道以北の獨逸領土を悉く奪取し且つ英佛の極東に於ける權益掠奪を企圖せり。

巴里平和會議に次いで國際聯盟成立し赤道以北の獨領島嶼は日本に統治を委託せられたり。

之が爲敵の南進政策は又も勝利を獲得し其の南進政策の第三步は成功せり。
第一次世界大戦に於て敵は太平洋上に少からざる勢力を獲得し歴年敵の太平洋上に於ける貿易は爾來増加の一途を辿り一九一一年より一九一六年に至る敵國の對南洋貿易總額は僅に八千萬元に過ぎざりしも一九一七年より一九二一年に至る敵國の對南洋貿易は一躍二億九千六百萬に増加し且つ入超より出超に轉じ其の後毎年の貿易は増加の経路を辿り一九三〇年に於ては敵國の對南洋貿易總額は既に四億元を突破せり。一九二四年世界經濟大恐慌に於ても敵國の對南洋貿易は依然増加し英米佛を遙に超過せり。一九三一年金融政策を以て南洋を席捲し其の貿易額は更に上昇し英佛米和諸國は何れも相當の打撃を蒙り故に各國は之が防禦として各國の屬領へ續々輸入税の加増を行ひ關稅障壁を強化し爲替統制を勵行し敵國商品の市場獨占を防禦せり。但し敵國の對南洋貿易の基礎は鞏固にして日貨排斥も廉價なる商品殺到に抗する手段なく斯かる情勢下に一九三七年中日戦争は勃發せり。
戦争發生後敵は物資缺乏に困り輸出商品の減少を來たし其の對南洋貿易は大影響を蒙るに至れり。敵の南進政策は元來貿易による經濟侵略及び政治的攻勢にあり故に其の野心の實現を保證す可く大洋主義を提唱し歐米に反抗し南洋方面に於て其の猛威を振はざる可くなき状態にありたり。

昨年敵の海南島を占領せるに勝し將來香港、佛印、ヒ島及南洋諸島は必然的に其の脅威を受くるに至る可しと吾人は各國の覺醒を要求し蔣委員長も亦會つて「敵の瓊島侵略は敵の南進政策に於ける九一八戰法の再用なり」と聲明せり。
現在敵は海南島に空軍根據地を建設し又其の海軍を海南島に集結し最近佛印の攻略を企圖せり。之れ即ち列強の己を顧みて他を顧みる能はざるに至りたる結果なり。
廣東の敵軍は廣九路に沿ひ深圳を攻略し九龍附近に進出し香港攻撃の初歩を試みつつあり。敵は今回英國が對獨作戰に没頭し東方を顧慮する暇無き機會に際し此の種の暴行を敢へて行へり。

然して其の實現可能なりや？吾人は之れに對し不可能なりと斷言するものなり。
(1) 三年前敵は中國侵略戰勃發以來三年間に亘り其の實力の大部を我國の戰場に消耗し爾來益々泥濘に陥り自ら抜く能はず且つ中日戦争終熄せざれば敵は他國と戦闘を行ふ餘力なく僅に虚勢を張りつつあるも其の實外強内弱にして英佛にして其の極東に於ける屬地の保護を固守せば敵は敢へて行動を起すを得ざるなり。
(2) 佛印は要地にして佛印一度失せば香港は忽ち危險の状態に立到る可く且つ佛印は我國交通の要地にして香港は我が國貨の市場なり。兩地と我方との關係は重大にして香港、佛印にして敵の保護下に置かるに至らば兩地は遠からず遺滅す可く英佛の極東に於ける利益は全部

崩壊し去り印度も亦動搖するに至る可し。故に英佛は断じて敵國に占據を許すに至らざる可し。且つ兩地の潰滅はヒ島に危機を波及するに至る可く之は米國の許容せざる可きなり。事實米國は既に一再に巨り其の極東政策の不變なる旨を聲明せり。本年四月敵は南印攻略を企圖せるもハル長官の宣言發表に遭ひ敢へて事を起すに至らざりき。今春米海軍は演習後ヒ島に久しく停泊し日本南進の行動を監視せり。故に敵國にして更に南進策強行の暴舉を敢へてせば必ずや國際的大打撃を蒙るに至る可し。

外國宣傳情報第五號

内閣情報部七・三

重慶 U.P. 新聞電報放送 (六月二十九日) (朝鮮總督府遞信局聽取)

一千八百年前の漢時代に築かれた重慶は本日本年第十九次の無差別爆撃を受けておきまりの慘憺たる災厄を蒙り、物質的には世界に多き他の廢墟同様、潰滅に直面してゐるが、國民政府の責任ある官憲は U.P. に對し、如何にこの古都が物質的に破壊されようが、重慶が依然支那側抵抗の中心地である事實に變化はなく、又國民政府の所在地は變更されないうこと宣言した。揚子江と嘉陵江の合流點に出來た細長い岬を取圍んでゐる六百年前に築かれた城壁内に、今では損害を蒙つてゐないような家屋が殆んど見當らなくなつてゐる。カトリック教會十ミプロテスタント教會六は一重慶にある教會の殆んど全部で、前者は實に一七五三年に創立されたものであるが一全く潰滅されたり、或は猛烈な衝撃を受けたりしてゐる。西門外領事館區域の外國領事館は三つとも完全に破壊された、即ちドイツのは昨年火災に見舞はれ、英佛領事館は夫々十數回震盪を受け、イギリス大使館は四回衝撃を受けた、昨日市の西方四哩にあるアメリカのメソヂスト教會臨時病院が全く破壊されたので、重慶の公衆用に唯一つ残つてゐた X 光線設備が粉碎された。防空壕に余裕があつて死傷者は最少限に減じられてをり、五千名の空襲救済者が最も能率的な編制下に置かれてゐるので、重慶の支那當局は